



神戸天然物化学株式会社

2022年3月期  
決算補足説明資料

証券コード：6568

2022年5月13日



# 1. 2022年3月期決算実績



## 2022/3期決算におけるポイント

1

**売上高23%増、経常利益63%増。売上高は過去最高更新**

- ✓ 医薬関連・エレクトロニクス関連材料の量産案件を中心に好調に推移
- ✓ 設備投資、人的投資による生産能力向上を背景に、需要の取り込みに成功

2

**2023/3期見通しはほぼ横ばいを想定**

- ✓ 2022/3期に想定以上の成長を実現した反動を織り込み
- ✓ 製造キャパシティ拡大に向けての固定費増、原料単価アップなども加味

3

**「屈む戦略」成果の回収期を経て、更なる業容拡大を図る時期へ**



# 1-1. 2022年3月期経営成績

- 対前年で増収増益。売上面では2020/3期断行の「屈む選択」に伴う生産能力向上が大きく貢献。特に機能材料や医薬分野の強い需要を取り込み、量産ステージ製品が全体を牽引。過去最高を更新
- 損益面では、増収効果に加え、生産性向上効果に伴う採算改善が下支え。経常利益は6割超の増益となり、EBITDAは4期ぶりに過去最高を更新。EBITDAマージンは27%台を回復

## 経営成績の推移

(百万円)	2020/3期	2021/3期	2022/3期			従来見直し 比較	前年比較	
			従来見直し (2021/5/13)	修正見直し (2022/4/15)	実績		差異	変化率
売上高	6,347	6,029	6,700	7,440	<b>7,440</b>	+740	+1,411	+23.4%
機能材料分野	2,249	2,150	2,325	—	<b>2,858</b>	+533	+707	+32.9%
医薬分野	2,846	2,937	3,020	—	<b>3,286</b>	+266	+348	+11.9%
バイオ分野	1,250	940	1,355	—	<b>1,295</b>	△60	+354	+37.7%
営業利益	574	635	700	1,094	<b>1,094</b>	+394	+459	+72.2%
経常利益	644	677	710	1,102	<b>1,102</b>	+392	+425	+62.8%
経常利益率	10.2%	11.2%	10.6%	14.8%	<b>14.8%</b>	+4.2pp	+3.6pp	—
当期純利益	518	399	440	643	<b>643</b>	+203	+243	+61.0%
EBITDA*	1,377	1,575	1,618	—	<b>2,023</b>	+405	+448	+28.5%
EBITDAマージン*	21.7%	26.1%	24.1%	—	<b>27.2%</b>	+3.1pp	+1.1pp	—

\* EBITDA = 営業利益 + 減価償却費で算出



## 1-2. 四半期別経営成績推移

- 2022/3期は結果として4Q偏重構造が顕著に。4Qは四半期ベースで売上、経常利益とも過去最高を更新。経常利益に至っては通期実績の過半を4Qのみで捻出。医薬分野売上も通期実績の半分が4Qに集中
- 4Q経常利益率は20%超の大台を回復。「屈む選択」断行による筋肉質な収益体質構築と積極投資による生産能力拡大効果がフル寄与

経営成績の推移（四半期推移）

	2020/3期				2021/3期				2022/3期			
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q
百万円												
売上高	1,012	1,450	1,567	2,317	1,064	1,525	1,325	2,113	975	1,866	1,556	<b>3,041</b>
機能材料	537	552	561	597	494	638	586	432	468	717	718	<b>954</b>
医薬	226	763	597	1,260	476	631	566	1,262	228	804	588	<b>1,665</b>
バイオ	249	134	408	459	93	255	173	418	278	344	250	<b>421</b>
営業利益	△20	92	260	242	△8	204	99	339	△46	269	250	<b>621</b>
経常利益	1	102	281	259	12	215	94	354	△45	273	252	<b>623</b>
経常利益率	0.2%	7.1%	18.0%	11.2%	1.2%	14.1%	7.1%	16.8%	△4.7%	14.6%	16.2%	<b>20.5%</b>
当期純利益	△3	137	193	191	3	164	△5	237	△104	189	168	<b>389</b>
EBITDA*	164	279	461	472	237	428	319	590	168	488	493	<b>872</b>
EBITDA マージン*	16.2%	19.3%	29.5%	20.4%	22.3%	28.1%	24.1%	27.9%	17.3%	26.2%	31.7%	<b>28.7%</b>

\* EBITDA=営業利益+減価償却費で算出

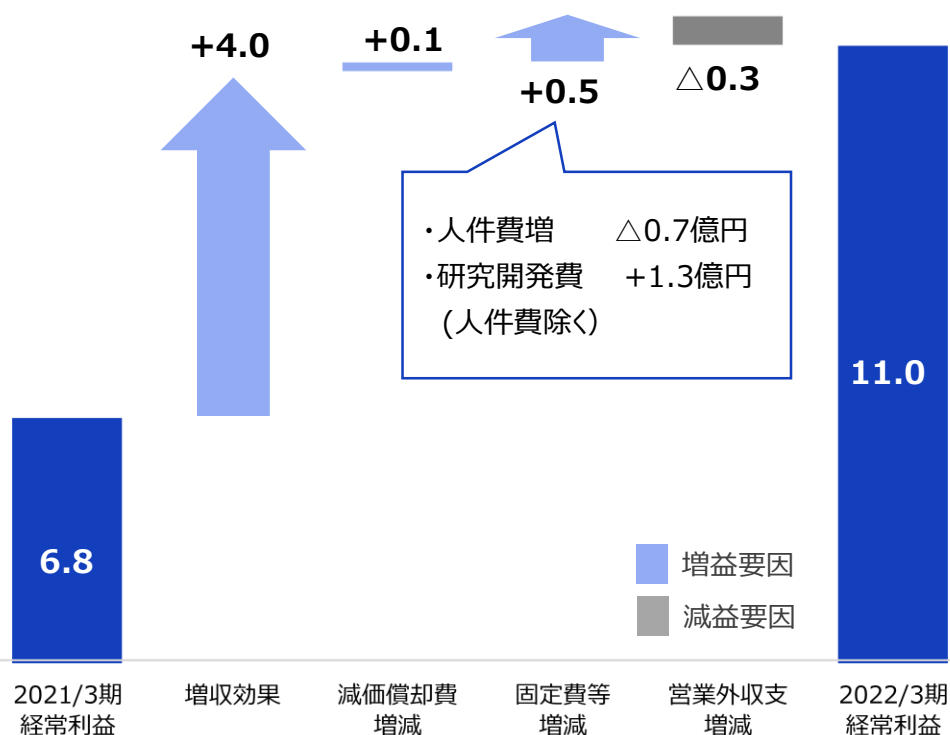


# 1-3. 2022年3月期 対前年比経常利益増減要因分析

- 大幅増益は増収効果が牽引。3分野とも量産ステージが好調に推移し、設備稼働率は高稼働の状況に。2019/3～2020/3期に大規模な能力拡大を実施したものの、早くも増産余地は窮屈な段階に発展
- コスト面では、人件費の上昇が主な減益要因。一方、研究開発費は量産案件獲得、増加に向けた製造法開発などの受託研究に注力し、抑制的に推移

## 2022年3月期経常利益 対前年比増減要因

(億円)



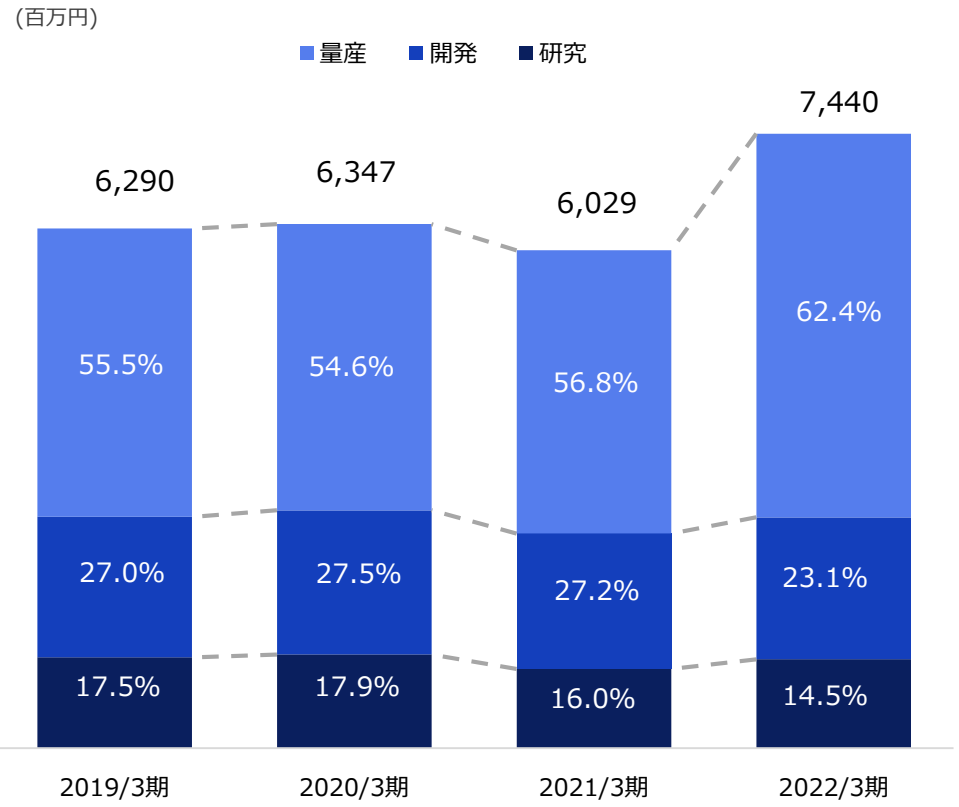
- 増収効果 +4.0億円  
 機能材料分野：ディスプレイ向け、医薬品向けなどで量産需要好調  
 医薬分野：大型量産品販売増  
 バイオ分野：原料問題緩和し、量産品好調  
 製品構成差による影響
- 減価償却費 +0.1億円  
 減価償却費 9.2億円
- 固定費等変動 +0.5億円  
 人件費増  $\Delta 0.7$  億円  
 研究開発費 +1.9億円  
 (人件費を除く研究開発費 +1.3億円)
- 営業外収支  $\Delta 0.3$  億円



# 1-4. ステージ別売上構成

- ステージ別売上内訳では、当期、初めて量産ステージ売上が全社売上の60%を超過。各分野ともに量産ステージの売上が揃って伸長
- 量産ステージ前段階となる研究・開発の両ステージは、売上比率は低下も、売上金額ベースでは拡大。ステージアップモデルにおける「種蒔き」は着実に進捗

## ステージ別売上割合の動向



※パーセンテージは全社売上に占める割合

- 機能材料分野
  - ディスプレイ関連や電子材料関連、医薬原料などの量産品が大きく伸長
  - 一方、開発ステージは一部製品が量産ステージにシフトした影響から減少
- 医薬分野
  - 開発ステージは一部製品が量産ステージにシフト
  - 大型の量産案件も堅調に推移したことで工場は高い稼働率を維持し量産品伸長に寄与。
  - 一方、開発ステージは一部製品が量産ステージにシフトした影響から減少
- バイオ分野
  - 原料問題緩和により既存量産案件が伸長
  - 研究・開発ステージもともに好調な進捗

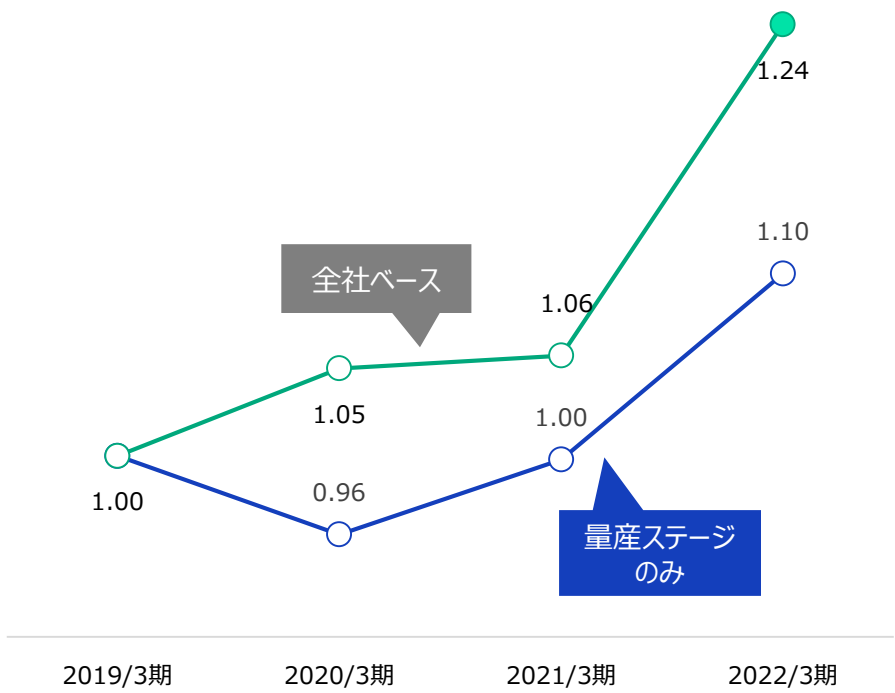


# 1-5. 案件規模の拡大

- 当期の大きな特色は、案件当たり売上規模の急拡大。全社ベースにおいて当期では24%の増加。これは、売上比率の高い量産ステージの伸長が大きく寄与
- 量産ステージの案件規模は研究・開発ステージの倍以上。量産ステージ拡大の影響は大
- 案件売上規模の拡大は、顧客からの生産委託比率上昇が進展していると推察。ひいては、当社技術への信頼向上を示唆しており、それが設備稼働率の向上、さらなる信頼獲得といった好循環を形成

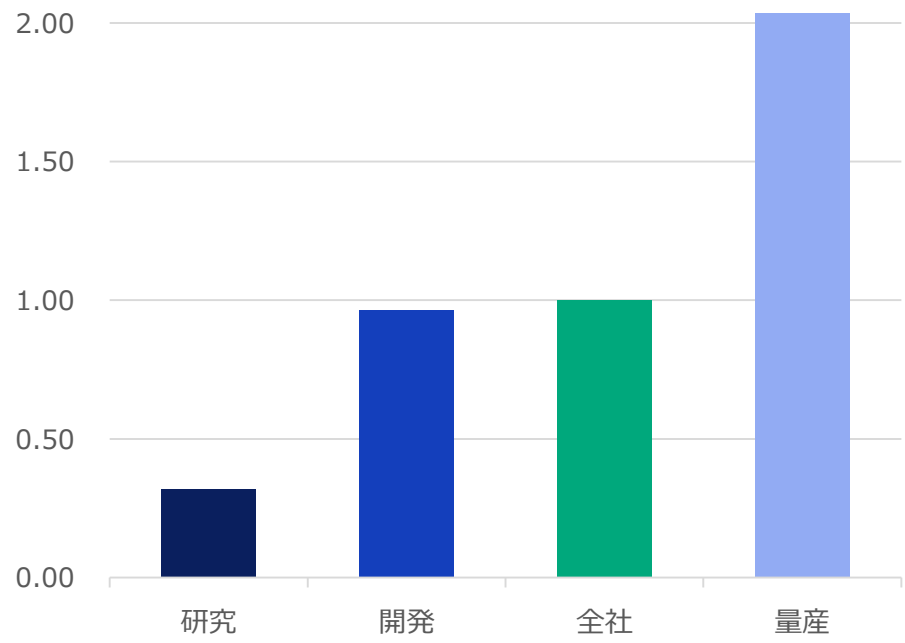
## 案件当たり売上規模の推移

\*2019/3期の案件当たり売上高を1.00として指数化



## ステージ別案件当たり売上規模

\*2022/3期全社の案件当たり売上高を1.00として指数化







# 1-6. 2022年3月期 財政状態

- 総資産は期末売上急増に伴う売上債権増加により、およそ12億円拡大。これらは今後、順次現金化の予定
- 売上債権増に併せ、一時的に借入金を積み増し。コロナ禍や地政学等によるサプライチェーンリスクに備え、現預金は一定水準以上を維持する方針。ただし、自己資本比率は76%と、財務安全性に変化なし

## 財政状態の推移

(百万円)	2020/3期	2021/3期	2022/3期	前期末差異
流動資産	4,335	5,137	<b>6,347</b>	+1,210
現預金	1,476	1,962	<b>1,973</b>	+10
売上債権	1,528	1,141	<b>2,519</b>	+1,377
棚卸資産	1,285	1,742	<b>1,771</b>	+29
固定資産	8,435	7,643	<b>7,604</b>	△39
総資産	12,770	12,780	<b>13,951</b>	+1,170
負債	2,943	2,660	<b>3,376</b>	+716
有利子負債	1,428	1,443	<b>1,676</b>	+233
純資産	9,827	10,120	<b>10,575</b>	+454
負債純資産合計	12,770	12,780	<b>13,951</b>	+1,170

流動性は一定水準以上を維持

期末売上の急増に伴う増加

設備投資 : 8.3億円  
減価償却費 : 9.2億円

運転資金確保のために短期借入金増加

自己資本比率75.8%

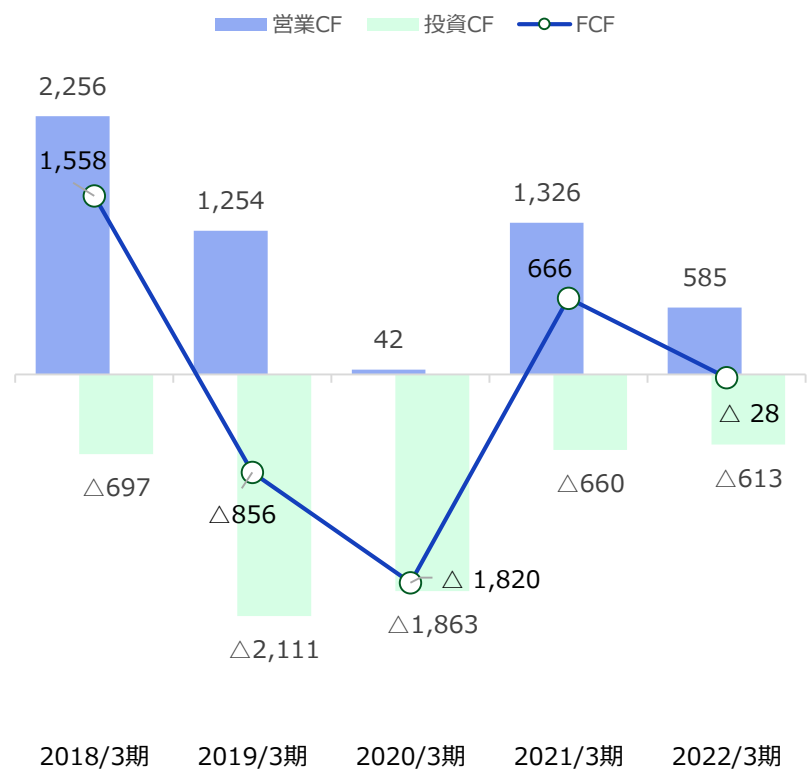


# 1-7. 2022年3月期キャッシュ・フローの状況

- 営業CFは前年比大幅減。期末の売上集中、また、売上の4Q偏重加速により、売上債権が大きく増加
- 投資CFはほぼ前年並み。現在は2020/3期までの大規模設備投資一巡後の投資回収期との位置づけ
- FCFはほぼトントン。ただし、売上債権急増という要因を勘案すれば、実質的には黒字基調を維持と認識

## キャッシュフロー推移

(百万円)	2020/3期	2021/3期	2022/3期	前年差異
営業CF	42	1,326	<b>585</b>	△741
投資CF	△1,863	△660	△ <b>613</b>	+46
固定資産取得	△1,953	△905	△ <b>833</b>	+72
FCF*	△1,820	666	△ <b>28</b>	△695
財務CF	254	△180	<b>39</b>	+219
借入金増減等	450	15	<b>233</b>	+218
配当金の支払額	△192	△193	△ <b>193</b>	±0
現金残高	1,476	1,962	<b>1,973</b>	+10



\* FCF=営業CF+投資CF で算出



## 2. 2023年3月期通期見通し



## 2-1. 2023年3月期 業績見通し

- 収益はほぼ横ばい圏と想定。2022/3期好調の反動、サプライチェーンリスクや原料高リスクの台頭、さらには当社増産余地の縮小といった状況を踏まえ予想。中でも機能材料分野は前期の反動を織り込む
- 当面の懸念は、需要好調な中、増産余力低下に伴う機会損失発生の可能性。既に出雲工場増設計画を進めるも、人員の先行採用などによるコストアップの発生が一旦業績踊り場を想定する一因とも位置付け

### 2022年3月期見通し

(百万円)	2020/3期	2021/3期	2022/3期	2023/3期 見通し	前年比較	
					差異	変化率
売上高	6,347	6,029	7,440	<b>7,500</b>	+59	+0.8%
機能材料分野	2,249	2,150	2,858	<b>2,450</b>	△408	△14.3%
医薬分野	2,846	2,937	3,286	<b>3,580</b>	+293	+8.9%
バイオ分野	1,250	940	1,295	<b>1,470</b>	+174	+13.5%
営業利益	574	635	1,094	<b>1,100</b>	+5	+0.5%
経常利益	644	677	1,102	<b>1,110</b>	+7	+0.6%
経常利益率	10.2%	11.2%	14.8%	<b>14.8%</b>	△0.0pp	—
当期純利益	518	399	643	<b>770</b>	+126	+19.7%
EBITDA*	1,377	1,575	2,023	<b>2,036</b>	+13	+0.6%
EBITDAマージン*	21.7%	26.1%	27.2%	<b>27.2%</b>	△0.0pp	—

\* EBITDA=営業利益+減価償却費で算出

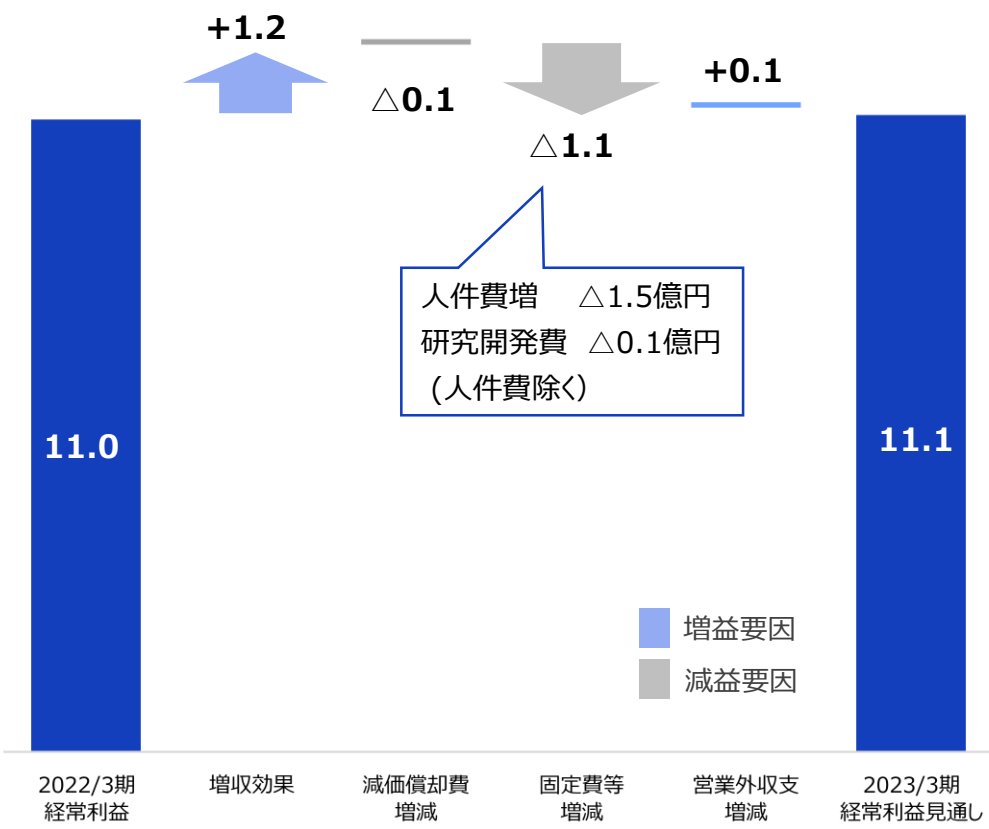


## 2-2. 2023年3月期 経常利益増減要因分析（見通し）

- 「屈む選択」以降の投資回収期から、次なる製造キャパアップに向けての先行投資のタイミングに入り、まずは人員増に伴う人件費増などのコスト増が大きな減益要因ながら、増収効果で吸収
- 原材料価格の上昇も、業績見通しにはリスク要因として織り込み済

### 2023年3月期 経常利益の増減要因（見通し）

(億円)



- 増収効果 +1.2億円  
機能材料：需要好調も前期の反動織り込む  
医薬分野、バイオ分野：需要の拡大  
製品構成の変容
- 減価償却費 △0.1億円  
減価償却費 9.3億円  
設備投資 15.0億円  
・老朽化設備の更新 など
- 固定費等変動 △1.1億円  
人件費増 △1.5億円  
研究開発費 △0.5億円  
(人件費を除く研究開発費 △0.1億円)
- 営業外収支変動 0.1億円

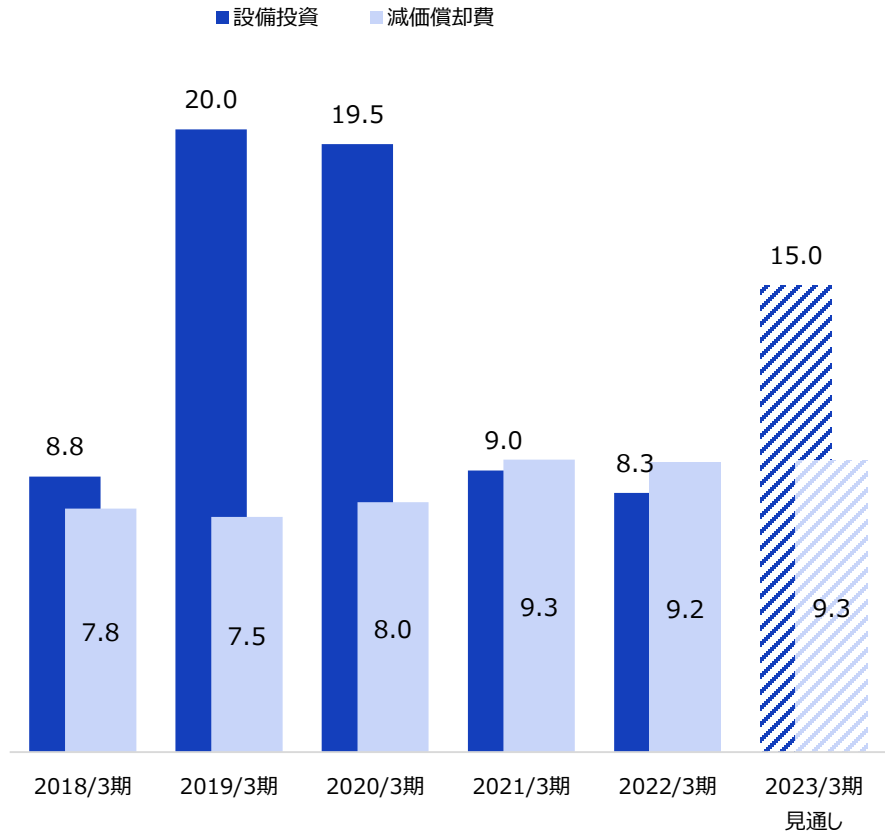


## 2-3. 設備投資動向

- 2022/3期は既存の生産能力の稼働向上に注力。大型設備投資は次期以降の課題に
- 設備投資の主なる内容は、機能材料分野における品質管理棟や医薬分野の製品倉庫棟など。設備投資額は15億円を計画

### 設備投資(CFベース)と減価償却費の推移

(億円)



#### <2022/3期の主な設備投資>

- バイオ分野の医薬品増産対応

#### <2023/3期の主な設備投資計画>

- 機能材料分野  
出雲第二工場品質管理棟
- 医薬分野  
自動ラック式製品倉庫棟  
溶剤タンクの新設  
生産管理システム導入
- その他、老朽・改善更新やITシステム導入

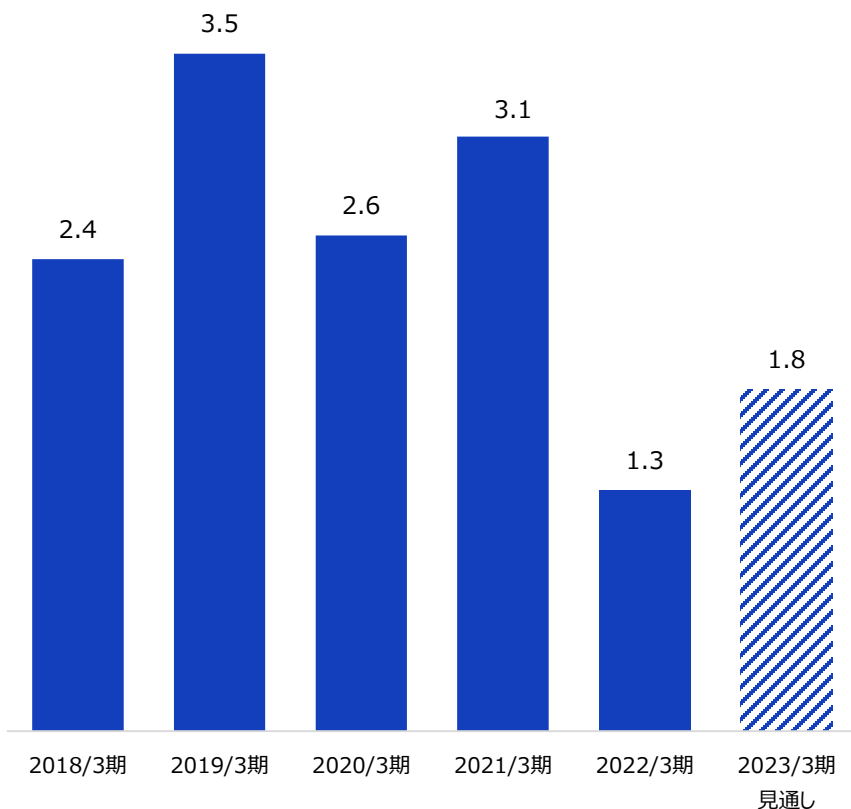


## 2-4. R&D動向

- 2022年3月期は生産能力増強や量産ステージ製品獲得に向けた製造方法の検討を受託。結果として、R&D費は抑制
- 2023年3月期は、医薬分野およびバイオ分野を中心にR&D費用の増額を計画。自社技術の蓄積を進める

### 研究開発費の推移

(億円)



#### <機能材料分野>

- 他社との協業による新商品の研究開発

#### <医薬分野>

- 次世代産業である中分子医薬(糖鎖、ペプチド、核酸)の技術開発
- アカデミアとの連携による創薬研究

#### <バイオ分野>

- バイオ技術を利用した独自プロセス技術の研究



## 2-5. 配当方針

- 2022/3期は1株当たり年間25円配当の継続を計画。配当性向は30.2%
- 2022年5月、自社株買いを発表。約1.1億円により最大10万株を購入する予定
- 2023/3期は、通期では年25円配の据え置きを予定するものの、初の中間配を実施の予定。自社株買いを含め、総還元性向は40%程度となる見通し

### 1株当たり情報の推移

(円)	2019/3期	2020/3期	2021/3期	2022/3期		2023/3期	
				実績	前期差異	計画	前期差異
1株当たり当期純利益	121.29	67.02	51.54	82.78	+31.24	98.97	+16.19
1株当たり配当金	25.00	25.00	25.00	25.00	±0.00	25.00	±0.00
配当性向	20.6%	37.3%	48.5%	30.2%	△18.3pp	25.3%	△4.9pp
総還元性向	20.6%	37.3%	48.5%	30.2%	△18.3pp	40%*	+9.8pp

\*2022/5/16：自社株買い実施





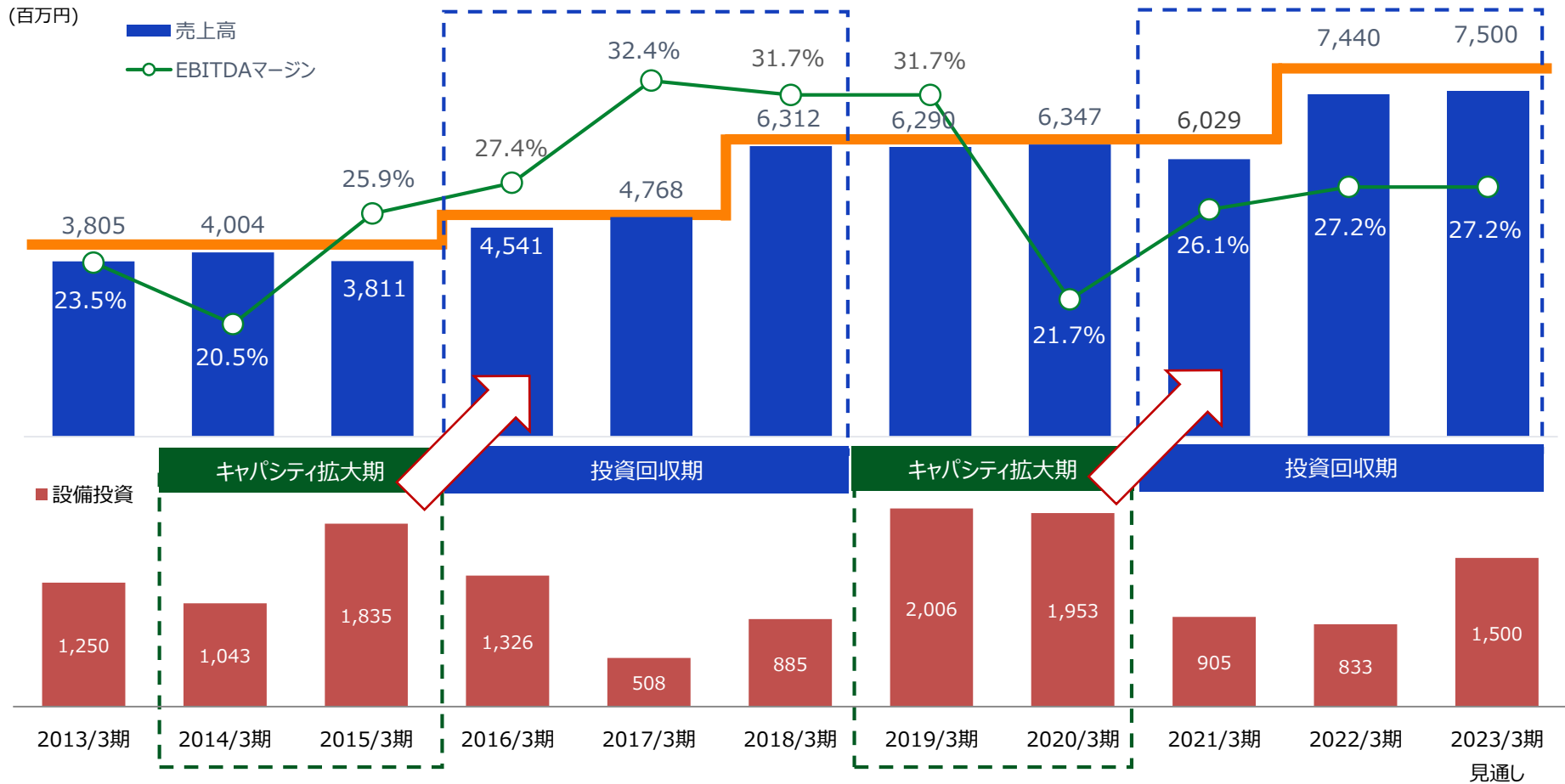
### 3. ビジネスサイクルと中長期事業トレンド



# 3-1. 当社のビジネスサイクル

- 当社のビジネスサイクルでは、生産能力規模の拡充と投資回収が交互に発生する傾向が鮮明。成長へのキードライバーは設備投資であり、投資資金の早期回収を実現できる投資タイミングの見極めがカギ
- 現在は早くも生産能力余地が窮屈となっており、需要拡大トレンドの中、機会損失の発生リスクも高まりつつあると認識。さらなる成長に向けて、能力拡充期入りを検討するタイミングは近づきつつあると認識

## 長期業績トレンド



\*2015/3期以前は有形固定資産のみを表示

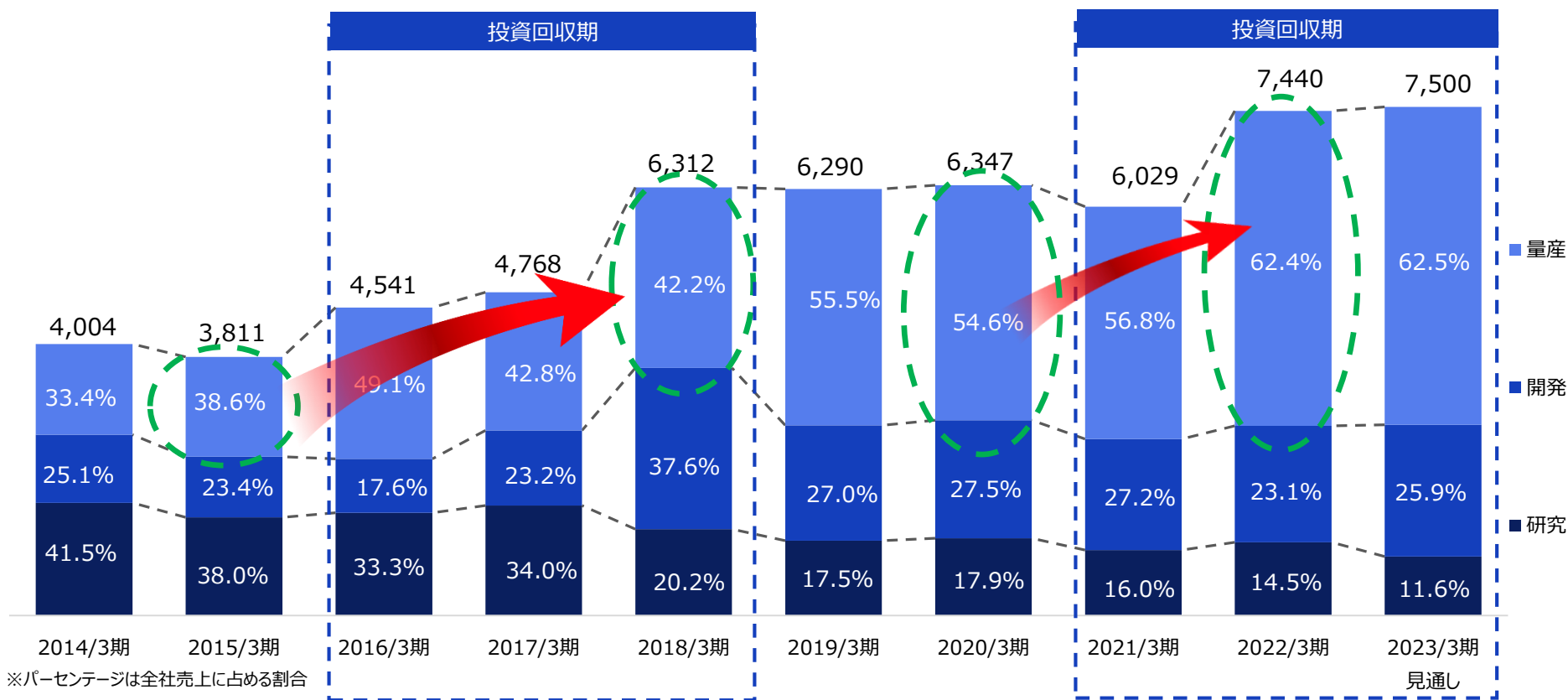


## 3-2. 量産ステージ拡大

- 生産能力拡大では主として量産ステージ案件の取込みが進捗。過去2回の投資回収期では量産ステージの売上比率が大幅に拡大している。量産ステージ案件は規模の経済が機能し、損益面でのメリットも大
- ただし、2023/3期は生産能力余地の縮小から売上比率の変化は小幅にとどまると想定。次なるスケールアップへの準備を急ぐ段階は近い

### ステージ別売上割合の動向

(百万円)





## 3-3. 出雲工場増設

2022年3月

### 出雲工場増設計画を決定

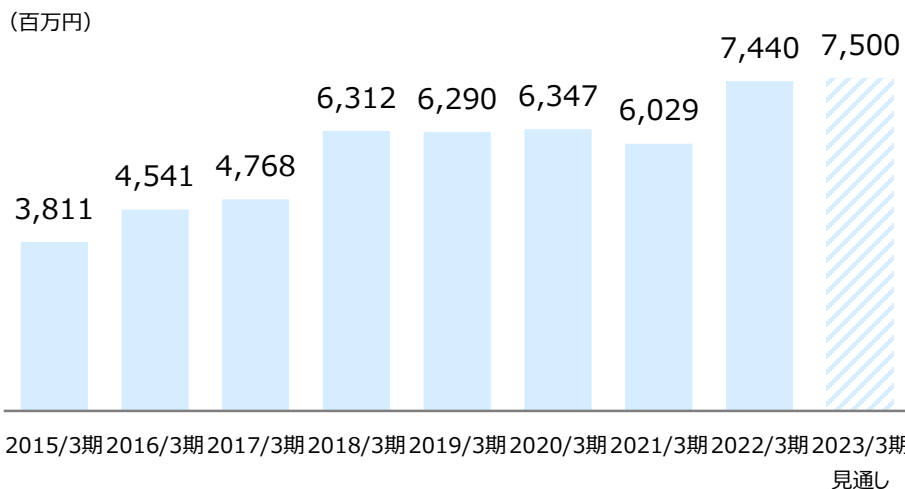
- 予定総投資額： 42億円
  - 予定投資期間： 2021年-2026年
  - 予定投資内容：**医薬分野**
    - ✓ 製造関連設備
      - 自動ラック倉庫（投資額3億円 2023/3取得予定）
      - 溶媒タンク等
    - ✓ GMP対応医薬品中間体製造設備
- 機能材料分野**
- ✓ 品質管理設備（投資額5.5億円 2023/2取得予定）
  - ✓ 半導体・ディスプレイ関連材料製造設備



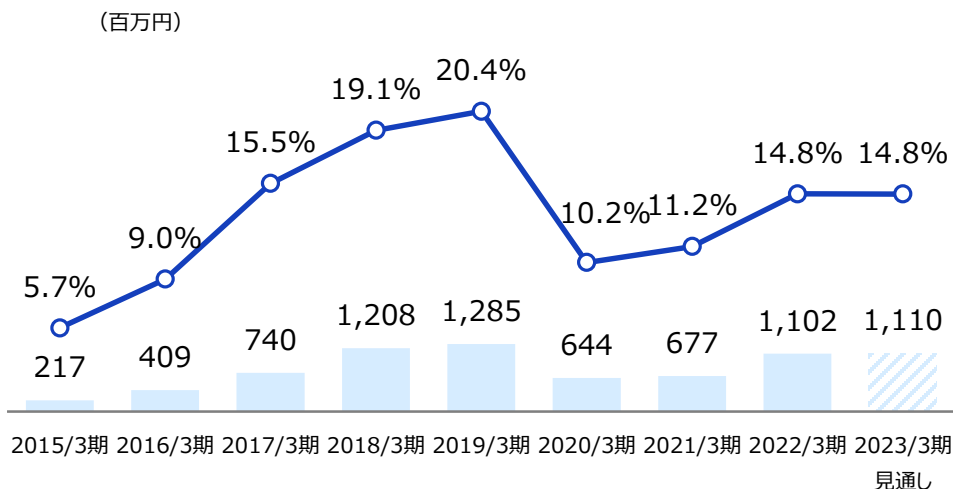
## 4. Appendix



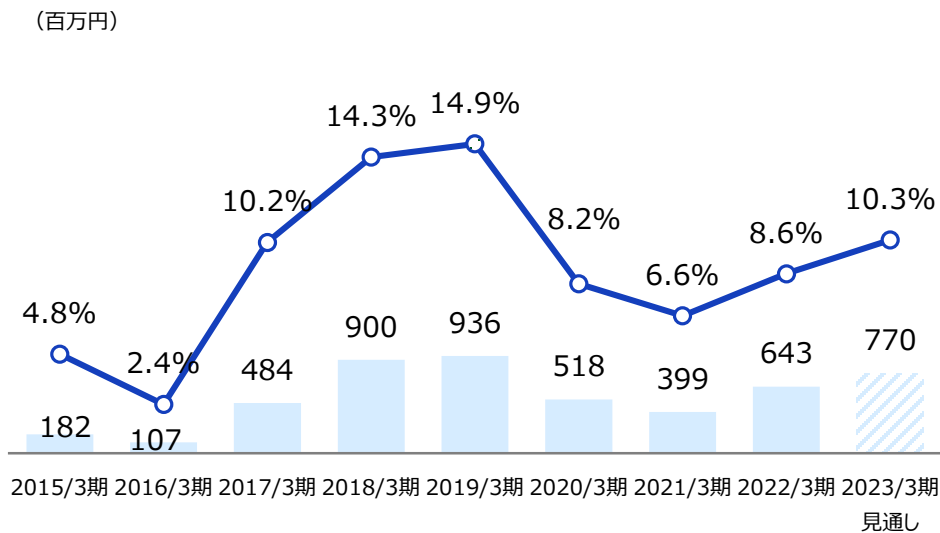
## 売上高



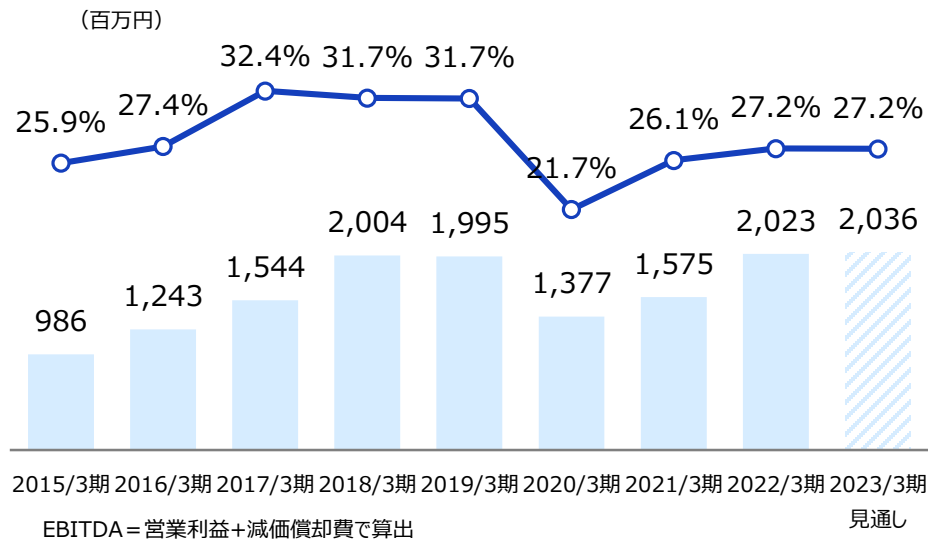
## 経常利益・経常利益率



## 当期純利益・当期純利益率



## EBITDA・EBITDAマージン





項目 (単体)	2018/3期	2019/3期	2020/3期	2021/3期	2022/3期
売上高 (百万円)	6,312	6,290	6,347	6,029	<b>7,440</b>
経常利益 (百万円)	1,208	1,285	644	677	<b>1,102</b>
当期純利益 (百万円)	900	936	518	399	<b>643</b>
EBITDA* (百万円)	2,004	1,995	1,377	1,575	<b>2,023</b>
売上高経常利益率	19.1%	20.4%	10.2%	11.2%	<b>14.8%</b>
売上高当期純利益率	14.3%	14.9%	8.2%	6.6%	<b>8.6%</b>
EBITDAマージン*	31.7%	31.7%	21.7%	26.1%	<b>27.2%</b>
現金及び預金 (百万円)	5,413	3,072	1,476	1,962	<b>1,973</b>
借入金・社債 (百万円)	2,256	978	1,428	1,443	<b>1,676</b>
純資産額 (百万円)	8,736	9,454	9,827	10,120	<b>10,575</b>
総資産額 (百万円)	12,688	12,002	12,770	12,780	<b>13,951</b>
自己資本比率	68.9%	78.8%	77.0%	79.2%	<b>75.8%</b>
配当性向	21.4%	20.6%	37.3%	48.5%	<b>30.2%</b>
役員・従業員数	254人	270人	285人	293人	<b>299人</b>

\* EBITDA = 営業利益 + 減価償却費で算出



年	項目
1985	神戸市西区に神戸天然物化学株式会社設立
1988	岩岡工場開設
1993	市川研究所開設
1997	明石市に本社移転
2001	出雲第一工場開設
2002	現在地に本社移転 神戸研究所開設
2003	大地化成株式会社を買収（2010年売却）
〃	中・大神医薬化工（太倉）有限公司 設立（2007年完全子会社化 2016年売却）
〃	神戸工場開設
2005	KNCバイオリサーチセンター開設
2007	つくば大学内にKNC-筑波ラボラトリー開設（2012年閉鎖）
2009	出雲第二工場開設
2013	出雲第一工場内に医薬品原薬精製・粉碎設備棟を建設
〃	出雲第二工場内にCNT分散体工場を建設
2014	KNCバイオリサーチセンター内に培養新棟を建設
2015	出雲第一工場内にペプチド・核酸原薬工場棟を建設
2017	出雲第一工場内に新品質管理棟を建設
2018	東証マザーズ上場
2020	出雲第一工場内に原薬精製棟を建設
2022	出雲第二工場品質管理棟着工
〃	東証グロース市場に移行





## < 見通しに関する注意事項 >

---

当資料に記載されている内容は、いくつかの前提に基づいたものであり、将来の計画数値や施策の実現を確約したり保証したりするものではありません。

問い合わせ先 経営企画部 IR担当 078-955-9900 (代表) [knc-ir@kncweb.co.jp](mailto:knc-ir@kncweb.co.jp)